

別紙2

〔評価方法〕

従来、当所ではMPS肺炎の罹患程度を示すにあたり、病変の占有面積により+~+++で集計しておりましたが、本病の特徴および判定結果の明確さ等を考慮し、次のとおりとしました。

(基準)

区分(点)	病変の程度
0	病変なし
1	軽度(片側または両側性1葉に限る)
2	中等度(片側または両側性2葉にわたる)
3	重度(片側または両側性3葉にわたる)

〔コメント〕

MPS肺炎につきましては、対象2375頭の平均は0.9288であり、総じて低値で推移しています。しかしながら、時折高値を示す農場がみられ注意が必要かと思われます。

寄生虫性肝炎につきましては、今回の調査では問題視されるデータはみられませんでした。

なお、第2回目の集計は秋口を予定しております。

と畜検査データのフィードバックに関するアンケート調査について

生産者名 農事組合法人 南山形養豚組合
 住 所 宮城県大崎市大崎町大崎 242-3
 電話番号 0113-62-9007

- ① 食肉衛生検査所が検査データを生産者のみなさんにお返ししていることをご存知ですか？
 はい いいえ
- ② あなたは検査データの提供を希望しますか？
 はい いいえ
- ③ 検査データを利用し、疾病対策に取り組む意思はありますか？
 はい いいえ
- ④ 提供してほしい情報についておしえてください。(複数回答可)
 肺炎の状況(罹患程度を含む) 肺炎の有無だけでよい
 寄生虫性肝炎の状況 肺炎の程度も知りたい
 その他()
- ⑤ ①で「はい」とお答えになった方に伺います。現在提供されているデータの様式はこれでよいと思いますか？
 はい いいえ()
- ⑥ 過去に検査データを活用したご経験のある生産者のかたに伺います。どのような対策、改善をされましたか。(複数回答可)
 えさを変えた ワクチンを変えた 治療薬を変えた
 施設を改善した()
 その他()

ご協力ありがとうございました。

平成12年8月5日

様

MPS肺炎及び寄生虫性肝炎の検査データ還元について

食肉衛生行政の推進につきましては、日頃よりご協力をいただき感謝申し上げます。
さて、先に検査データの還元事業に関する協力についてお願いしていたところですが、第2回目の結果がまとまりましたので別添のとおり送付します。

記

1 対象：7月14から8月9日に(株)岩手畜産流通センターに搬入された貴農場分全頭
(7月31日分の50頭は都合により除く)

2 結果：別紙

3 評価等

MPS肺炎につきましては、対象1655頭の平均は1.1789であり、第1回目に比べ指数の上昇が確認されました。また、前回同様時折高値を示す農場がみられ引き続き注意が必要かと思われます。

寄生虫性肝炎につきましては、今回の調査でも問題視されるデータはみられませんでした。

なお、1、2回目調査との比較対象として次回は秋口(11月頃)の実施を予定しております。

疾病別廃棄状況(平成10年度)

検査頭数	心冠水腫	心外膜炎	肺炎	横隔膜炎・膿瘍	胃炎	腸炎	腸間膜水腫	肝炎	肝膿瘍	肝包膜炎	肝富脈斑	うっ血肝	肝変性	S D L	胆肝炎・胆石症	肝臓リポフスチン沈着	肝蛭症	腹膜炎	泌尿器の炎症	生殖器の炎症	尿路結石	脂肪壊死	運動器	その他	一部廃棄合計
平成10年11月13日	4		1					2											3		2				8
平成10年11月18日	4		2					2											3		3				10
平成10年11月30日	5		1					1													1				3
平成10年12月4日	6							1											6		6	1			14
平成10年12月7日	6							4											1		3	1			9
平成10年12月9日	4							2		1					1				1		1				6
平成10年12月18日	6		2					1											3		5				11
平成10年12月22日	4							1											3		3				7
平成11年1月8日	6		2					1		1															4
平成11年1月14日	6		2					2	1																5
平成11年1月18日	6		1						2						1				2		2				8
平成11年1月25日	6							2											1						4
平成11年1月29日	6									1				2					2		5				10
平成11年2月5日	6							3	2										1		1				8
平成11年2月12日	5							1	1													1			3
平成11年2月16日	4							1		1												1			3
平成11年3月1日	1																		1		1				2
平成11年3月12日	3							2											1		3				6
平成10年度合計	88		11	1				26	6	4				3	2				28		36	4			121
廃棄率(%)			12.5	1.1				29.5	6.8	4.5				3.4	2.3				31.8		40.9	4.5			137.5

疾病別廃棄状況(平成11年度)

	検査頭数	心冠水腫	心外膜炎	肺炎	横隔膜炎・膿瘍	胃炎	腸炎	腸間膜水腫	肝炎	肝膿瘍	肝包膜炎	肝富脈斑	うつ血肝	肝変性	S D L	胆肝炎・胆石症	肝臓リポフスチン沈着	肝蛭症	腹膜炎	泌尿器の炎症	生殖器の炎症	尿路結石	脂肪壊死	運動器	その他	一部廃棄合計
平成11年4月2日	3																			2		3	2			10
平成11年4月5日	4								2											4		1	2			13
平成11年4月28日	2																									2
平成11年5月21日	7		1	1	1				1											2		1	2	1		17
平成11年5月26日	1								1																	1
平成11年7月12日	1					1	1																			4
平成11年7月22日	1											1														2
平成11年7月29日	1									1																2
平成11年9月3日	9								2				1	1									1			14
平成11年9月24日	1																			1						2
平成11年9月30日	4								2																	6
平成11年10月21日	3									1	1						1								1	7
平成11年11月25日	2																									2
平成11年度合計	39		1	1	1	1	1	1	8	2	2	1	1	1			1			9		5	7	1	1	82
廃棄率(%)			2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	20.5	5.1	2.6	2.6	2.6	2.6			2.6			23.1		12.8	17.9	2.6	2.6	210.3

頭数

疾病別廃棄状況(平成12年度)

	検査頭数	心冠水腫	心外膜炎	肺炎	横隔膜炎・膿瘍	胃炎	腸炎	腸間膜水腫	肝炎	肝膿瘍	肝包膜炎	肝富脈斑	うつ血肝	肝変性	S D L	胆肝炎・胆石症	肝臓リポフスチン沈着	肝蛭症	腹膜炎	泌尿器の炎症	生殖器の炎症	尿路結石	脂肪壊死	運動器	その他	一部廃棄合計
平成12年10月2日	14								2	3										2		3	3	2		29
平成12年10月6日	14			3					5	2					1					2				1		28
平成12年10月16日	14			5	2		1	1	1	2	1		1		1	1						1	2	1		33
平成12年12月19日	13								9													1	1	1		25
平成12年度合計	55	0	0	8	2	0	0	1	17	7	1	0	1	0	2	1	0	0	0	4	0	5	6	5	0	115
廃棄率(%)		0.0	0.0	14.5	3.6	0.0	0.0	1.8	30.9	12.7	1.8	0.0	1.8	0.0	3.6	1.8	0.0	0.0	7.3	0.0	9.1	10.9	9.1	0.0	209.1	

年度別疾病別廃棄状況

	検査頭数	心冠水腫	心外膜炎	肺炎	横隔膜炎・膿瘍	胃炎	腸炎	腸間膜水腫	肝炎	肝膿瘍	肝包膜炎	肝富脈斑	うつ血肝	肝変性	S D L	胆肝炎・胆石症	肝臓リポフスチン沈着	肝蛭症	腹膜炎	泌尿器の炎症	生殖器の炎症	尿路結石	脂肪壊死	運動器	その他	一部廃棄合計
平成10年度廃棄率	88	0.0	0.0	12.5	1.1	0.0	0.0	0.0	29.5	6.8	4.5	0.0	0.0	0.0	3.4	2.3	0.0	0.0	0.0	31.8	0.0	40.9	4.5	0.0	0.0	137.5
平成11年度廃棄率	39	0.0	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	0.0	20.5	5.1	2.6	2.6	2.6	2.6	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	23.1	0.0	12.8	17.9	2.6	2.6	210.3
平成12年度廃棄率	55	0.0	0.0	14.5	3.6	0.0	0.0	1.8	30.9	12.7	1.8	0.0	1.8	0.0	3.6	1.8	0.0	0.0	0.0	7.3	0.0	9.1	10.9	9.1	0.0	209.1

(%)

平成12年12月12日

紫波食肉衛生検査所
佐藤主任 様

水沢食肉衛生検査所
稲森久展

と畜検査データに係るフィードバック事業について
豚におけるMPS肺炎及び寄生虫性肝炎の調査結果は、次のとおりです。

記

1 第一回調査結果（データ収集期間；平成12年6月1日～平成12年6月30日）

生産者名		A	B	C
データ収集頭数（頭）		97	74	83
MPS肺炎	+	31 (32.0)	38 (51.4)	43 (51.8)
	++	1 (1.0)	8 (10.8)	13 (15.7)
	+++	1 (1.0)	2 (2.7)	0 (0.0)
	計	33 (34.0)	48 (64.5)	56 (67.5)
	指数	0.37	0.81	0.83
寄生虫性肝炎		0 (0.0)	1 (1.4)	0 (0.0)

2 第二回調査結果（データ収集期間；平成12年11月1日～平成12年11月30日）

生産者名		A	B	C
データ収集頭数（頭）		84	149	122
MPS肺炎	+	31 (36.9)	69 (46.3)	44 (36.1)
	++	2 (2.4)	12 (8.1)	10 (8.2)
	+++	1 (1.2)	12 (8.1)	2 (1.6)
	計	34 (40.5)	93 (62.4)	56 (45.9)
	指数	0.45	0.87	0.57
寄生虫性肝炎		0 (0.0)	10 (6.7)	68 (55.7)

3 その他衛生管理に係る変更等

(1) A生産者

特に無し。

(2) B生産者

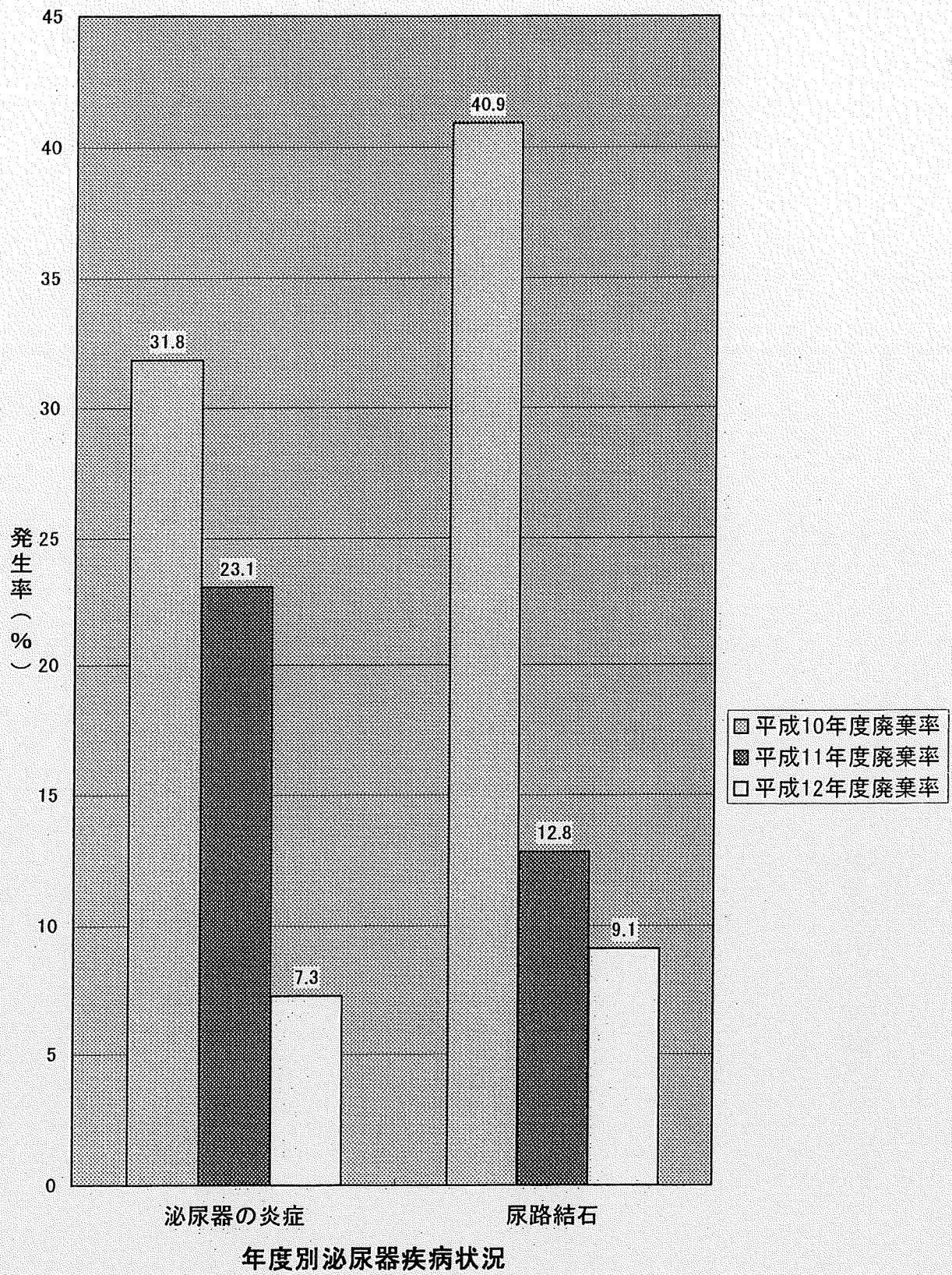
平成12年7月から繁殖豚舎に、平成12年8月から肥育育成豚舎に2～3日に1回、朝又は夕方バコマ(300～500倍)散布。

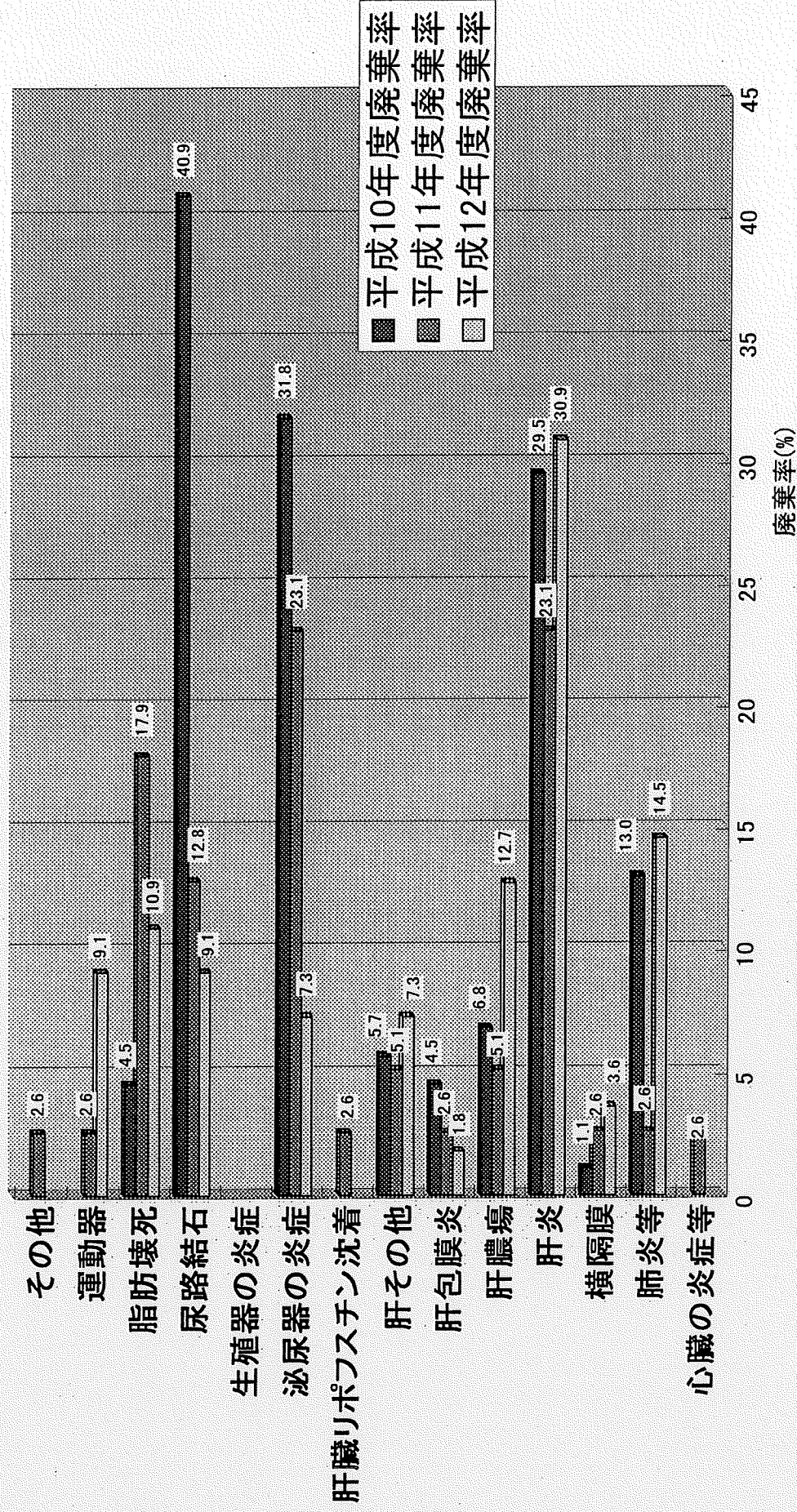
(3) C生産者

平成12年8月から繁殖豚舎に、週一回バコマ(1000倍)散布。

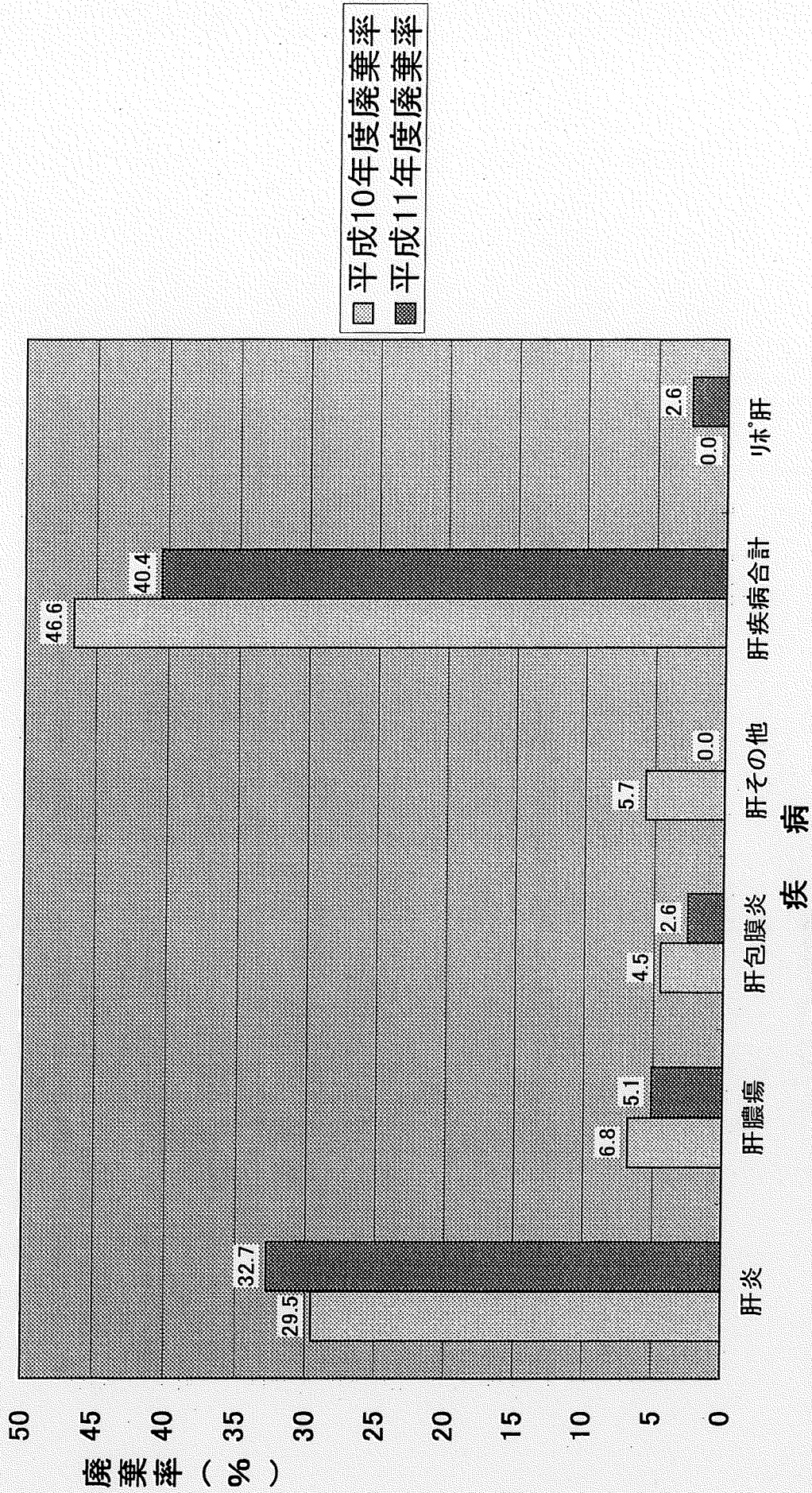
平成12年8月20～23日、肥育育成豚舎；徹底清掃後、バコマ(1000倍)散布。

平成12年8月25日、肥育育成豚舎；浄化剤(マイター)散布。

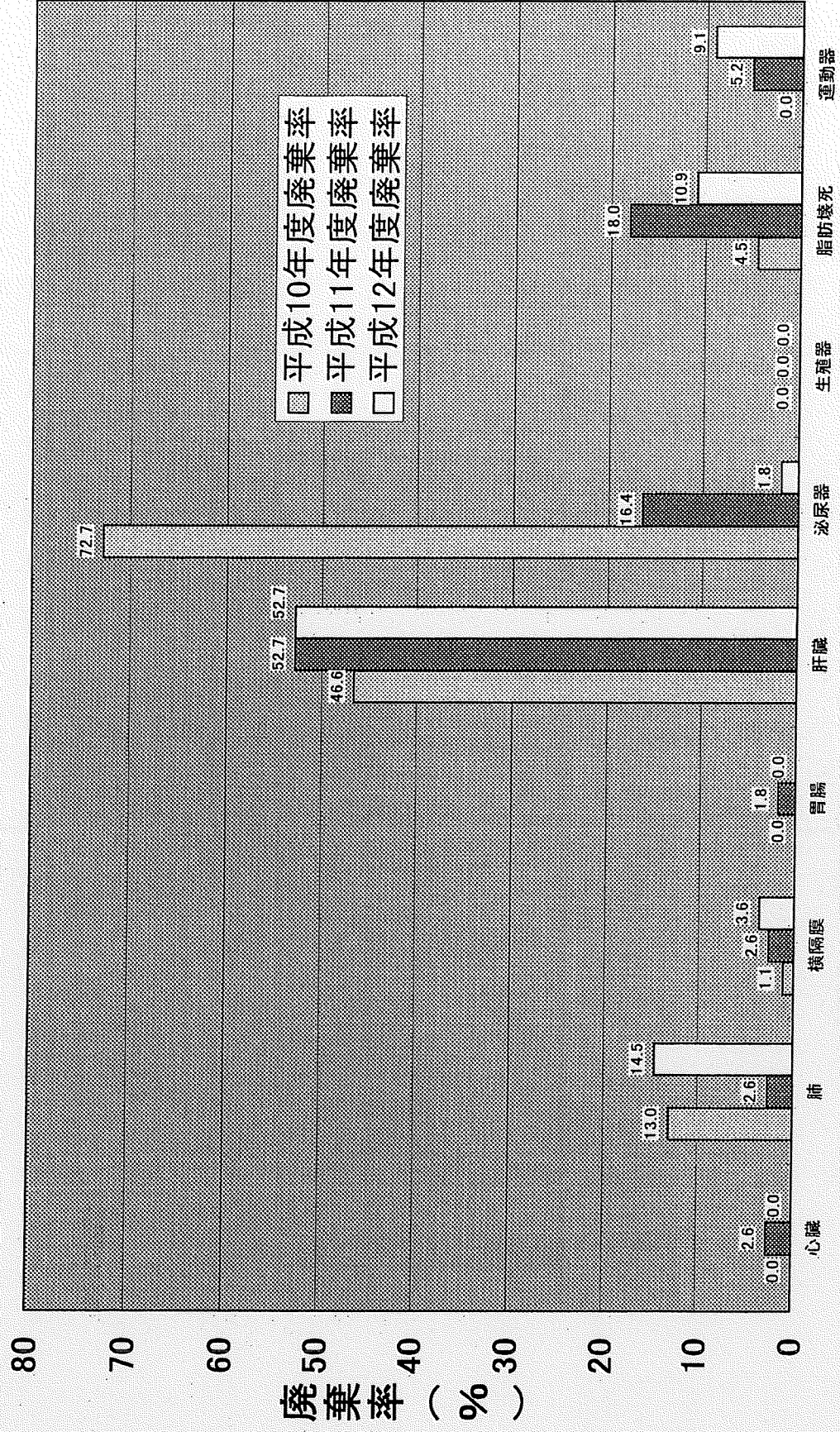




年度別疾病別廃棄状況



年度別疾病別肝臓廃棄状況



年度別臓器別廃棄状況

平成12年12月28日

岩手県紫波食肉衛生検査所
検査第二係 佐藤 敦 様

山形県内陸食肉衛生検査所
鈴木 吉 一

厚生科学研究事業の結果について

このことについて別紙のとおりです。
とりまとめご苦労様です。

と畜検査データのフィードバックに関するアンケート調査について

山形県内陸食肉衛生検査所

検査データを還元している生産者のうち、34件を対象として郵送によるアンケート調査を実施し、23件から回答を得た。(回収率67.6%)
アンケート内容及び回答は下記のとおりである。

- 1 検査データを見ていますか。
- | | | |
|----|--------|----|
| 回答 | 良く見ている | 12 |
| | ざっと見る | 9 |
| | あまり見ない | 1 |
| | 見ない | 0 |
- 2 検査データのどの部分を見ていますか。(複数回答)
- | | | |
|----|--------------|----|
| 回答 | 肺の疾病の数や割合 | 19 |
| | 胃腸の疾病の数や割合 | 2 |
| | 肝臓の疾病の数や割合 | 6 |
| | 疾病より廃棄された臓器数 | 3 |
| | その他 正常豚疾病豚の比 | |
- 3 検査データのどの疾病を注意して見ていますか。(自由回答)
- | | | |
|----|------------------------|---|
| 回答 | 疾病全体の増減 | 5 |
| | 肺炎 | 5 |
| | 肺炎・胸膜炎等呼吸器系疾病 | 3 |
| | 胸膜肺炎 | 2 |
| | その他 豚丹毒、関節炎、大腸炎、寄生虫性肝炎 | |
- 4 検査データは養豚経営に役立ちますか。(複数回答)
- | | | |
|----|-------------|----|
| 回答 | 役に立つ | 9 |
| | 少しは役に立つ | 5 |
| | 特に役に立つことはない | 0 |
| | 参考にはなる | 11 |
- 5 5で役に立つ・少しは役に立つという回答者へ質問。
どんな形で役に立ちますか。(複数回答)
- | | | |
|----|---------------------|----|
| 回答 | 衛生管理の結果を判断できる | 8 |
| | 疾病の状況を把握できる | 13 |
| | 疾病予防プログラムをたてる参考になる | 6 |
| | 廃棄された臓器の数量を知ることができる | 6 |
| | その他 出荷豚の健康・衛生ランク付け | |
- 6 検査データを見て何か具体的に対策をとったことはありますか。
- | | | |
|----|----|----|
| 回答 | ある | 13 |
| | ない | 7 |
- 7 6であるとした回答者へ質問
実際に行った対策はなんですか。(複数回答)
- | | | |
|----|------------------------------|---|
| 回答 | 疾病を減らそうと考えた | 7 |
| | (疾病名 MPS 3、肺炎3、胸膜肺炎4、豚丹毒1など) | |
| | ワクチンをすることにした | 8 |
| | (ワクチン名 AR 3など) | |

ワクチンを変えた 2
豚舎を改善した 2

8 現在の検査データについて質問

(1) 様式はどうですか。

回答 わかりやすい 1 1
少しわかりにくい 8
わかりにくい 2

(2) 内容・情報はどうか。

回答 わかりやすい 6
少しわかりにくい 1 0
わかりにくい 1
わからない用語が多い 2
もっと詳しく知りたい 2

(3) 現在の検査データ以外に知りたいこと、もっと詳しく知りたいことはありますか。

回答 MPS の程度、胸膜肺炎の程度、豚丹毒ワクチンの必要性、パスツレラ肺炎、豚丹毒・膿毒症、有効な薬品・休業期間、疾病の予防法

9 特に注意している疾病はなんですか。(複数回答)

回答 豚マイコプラズマ性肺炎 1 8
アクチノバチラス肺炎 1 5
A R 1 3
豚丹毒 9
大腸菌性下痢 1 0
豚伝染性胃腸炎 2
その他 すず病、ミルクスポットの肝臓廃棄、回虫・鞭虫、膿毒症、PRRS

10 経営で注意したり、心がけていることはなんですか。(複数回答)

回答 衛生管理全般 1 2
疾病の予防 1 8
枝肉の格付け 1 6
事故率低減 1 7
その他 離乳後の事故対策など

11 検査所(と畜場)で見つけたらすぐに連絡して欲しいものはありますか。

回答 保留または即時焼却処分となった時、法定伝染病

平成 1 2 年度厚生科学研究事業結果

山形県内陸食肉衛生検査所

1 平成 1 2 年度の厚生科学研究の結果をまとめた。

2 材料と方法

(1) 対象農家：と畜検査結果の還元を希望している養豚農家 9 戸 (A 農家から I 農家) と対照として還元していない農家 1 戸 (J 農家)

(2) 方法：山形県総合食肉流通センターと米沢市営と畜場でと畜された豚のと畜検査結果のうち、豚マイコプラズマ肺炎 (MPS) 感染の程度をその病変の範囲から、り患していないもの (-)、軽度のり患 (+ ; 1~2 葉に病変がみられる)、中度のり患 (++ ; 3~4 葉に病変がみられる)、重度のり患 (+++ ; 5~6 葉に病変がみられる) に分類して記録しその結果を生産農家に還元した。

MPS の病変の程度により、- を 0、+ を 1、++ を 2、+++ を 3 点とし、所定の計算式により MPS の感染の度合いを指数で表して評価した。

(3) 同様に寄生虫性肝炎の発生状況を調査し還元した。(J 農家を除く)

(4) 平成 1 2 年 6 月から 1 1 月までに、MPS および寄生虫性肝炎の感染状況が改善されるかを調べた。

3 成績および考察

(1) 各農家の MPS および寄生虫性肝炎感染状況は別紙のとおり。

(2) 調査期間中、MPS 感染は A 農家をもっとも少なかった。ほかの農家は 17.8 % から 87.5 % の範囲でみられた。

(3) A 農家の MPS 発生率は 6 月の 24.3 % を除ききわめて低かった。6 月の MPS 発生率が高かったのは、MPS の調査を始めたことによって検査員が MPS の軽度感染と類似している無気肺を数え上げたものと考えられた。(7 月から 1 1 月までの結果が A 農家の実態と思われる)

(4) B 農家の MPS 発生率は調査農家中もっとも高かった。実地調査では B 農家の豚舎内にはくもの巢もほこりもなく管理は行き届いているように見えた。しかし、B 農家では MPS をはじめさまざまな疾病が多い。B 農家は各地域にある農家から子豚を導入して(子豚市場廃止に伴い、これらの子豚の受け入れ先となった) おり、このことがさまざまな病原菌を持ち込むこととなっていると思われた。

(5) 調査期間中に MPS の発生率は対照農家も含めほとんどの農家で月を経るに従って減少した。この理由は明らかでないが、調査期間は豚舎は開放的で換気もよい時期であること、また、昨年から今年にわたり山形県内では多くの養豚農家への母豚の供給が滞ったことで産子数が減少し、結果的に薄飼いの状態になったために MPS 感染率が低下したと考えられた。

晩秋から冬期間は寒冷のために豚舎の窓を閉め切ってしまうことから換気が悪くなるため、呼吸器病が蔓延しやすい時期となる。実際対象農家 10 戸のうち、5 戸で 1 1 月には

10月よりMPSの感染率が上がった。

(6) 寄生虫性肝炎は調査期間中多発した農家はなかった。

(7) MPSおよび寄生虫性肝炎とも最も感染率が低いA農家は、ケンボロー豚の原種豚農場でもある。肉豚への医薬品の投与は豚丹毒ワクチンの接種1度きりでそれ以外の医薬品の使用はない。各種病原菌を農場に侵入させない管理体制が確立されており、スーパーSPFの状態を維持している。

(8) A農家以外の農場は従来の連続飼育(コンティニアス)方式の豚舎利用形態である。この方式では病原体の蓄積が起りやすいといわれている。

MPSの原因菌であるマイコプラズマ・ハイオニューモニアは広く分布し、豚あるところにMPSありと考えられている。一般的に、MPSに限らず各種疾病は少ないほどよいが、連続飼育方式の豚舎では一度侵入した呼吸器病の低減や清浄化は容易でないと思われる。

検査データ整理票

検査所名	山形県内陸食肉衛生検査所		
生産者No.	A		
データ収集期間	平成12年6月1日～平成12年11月30日		
データ収集頭数	別紙の調査結果のとおり		
飼養管理状況			
1 使用ワクチン			
①豚マイコプラズマ肺炎ワクチン	使用	有	(無)
ワクチン名	-----		
用法用量	別紙参照		
②Appワクチン	使用	有	(無)
ワクチン名	-----		
用法用量	別紙参照		
③ARワクチン	使用	有	(無)
ワクチン名	-----		
用法用量	別紙参照		
④豚丹毒ワクチン	使用	(有)	無
2 寄生虫性肝炎			
薬剤名	駆虫剤使用	(有)	無
用法用量	リハールコ-IVL 母豚		
用法用量	別紙参照		
3 その他（経口および飼料に添加して用いる抗生物質製剤等）			
使用	有	(無)	
薬剤名	-----		
用法用量	別紙参照		
調査結果	別紙のMPS調査結果および寄生虫性肝炎調査結果のとおり		

MPS調査結果 A 農家 M畜産

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
調査頭数	345	288	381	284	195	217	1,710
り患程度(点) 0	261	268	354	273	194	212	1,562
り患程度(点) 1	64	16	26	6	1	5	118
り患程度(点) 2	17	4	1	4	0	0	26
り患程度(点) 3	3	0	0	1	0	0	4
<指数>	0.310	0.093	0.073	0.060	0.005	0.023	0.106
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
		75.7%	93.1%	96.1%	99.5%	97.7%	91.3%
		18.6%	5.6%	2.1%	0.5%	2.3%	6.9%
		4.9%	1.4%	1.4%	0.0%	0.0%	1.5%
		0.9%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.2%

寄生虫性肝炎調査結果

調査頭数	928	881	1033	947	987	890	5,666
陽性頭数	0	2	4	4	1	3	14
		0.0%	0.2%	0.4%	0.1%	0.3%	0.2%
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)